

研究・調査報告書

報告書番号	担当
215	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Beverage preference and risk of alcohol-use disorders: a Danish prospective cohort study. アルコール飲料の種類好みとアルコール関連疾患リスク：前向きコホート研究・デンマーク	
執筆者	
Flensburg-Madsen T, Knop J, Mortensen EL, Becker U, Makhija N, Sher L, Grønbaek M.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Stud Alcohol Drugs. 2008 May;69(3):371-7	
キーワード	
アルコール、飲酒、アルコール関連疾患、デンマーク、栄養	
要旨	
<p>目的： 本研究の目的は、アルコール飲料の好み種類が将来のアルコール関連疾患 (Alcohol-use disorders, AUD) のリスクに関連するかを検討することである。</p> <p>方法： 前向きコホート研究のデータを用い。これはコペンハーゲン心臓研究 (デンマーク) によるものであり、アルコール摂取量とその共変量についての3つの情報が更新されている、18,146名、追跡期間26年間の追跡データである。本研究の対象集団は、AUD発症を検出するための3つの登録研究にリンクされていた。</p> <p>結果： 男女共に、ワインは週あたりアルコール摂取量に関係なくAUDリスクは低かった。ビールとスピリッツ類のみを1週間に15-21ドリンク飲む女性のAUDリスクは15.8 (95%信頼区間 [confidence interval, CI]: 7.8-33.3) であったが、総アルコール摂取量の35%以上がワインによる群では、2.0 (CI: 0.7-5.2) であった。ビールとスピリッツ類のみを1週間に15-21ドリンク飲む男性のAUD**は3.1 (95%信頼区間 [confidence interval, CI]: 1.8-5.4) であったが、総アルコール摂取量の35%以上がワインによる群では、リスク0.8 (CI: 0.3-2.1) であった。アルコール摂取量の35%以上をビールから摂取することは、女性ではAUDを上昇させたが、男性ではリスクに影響しなかった。</p> <p>結論： アルコールを飲むときにワインを含める個人ではアルコール摂取量とは独立してAUDリスクの低下が観察された。なしうる説明は、生活習慣要因と個人の特徴は飲み物の好みと関連している、ということだろう。</p>	